

1. 吹田市の発展と自然のようす

地形と地質

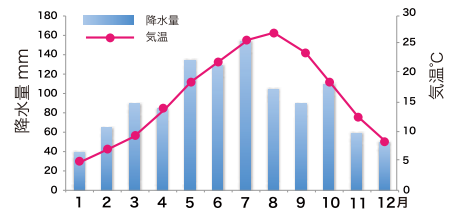
今から 6,000 年ほど前に、当時の淀川と猪名川が大阪湾に注ぐあたりで南に突き出た半島だったところが「千里丘陵」です。千里丘陵は、今の千里中央の近くにある島熊山（吹田市・箕面市・豊中市の境目）あたりが最高点で、ここから東南に向かってなだらかに下り、おおむ

ね JR 東海道本線のあたりで平野に変わります。このため、丘陵を流れる川は、西の方ではほぼ北から南に、東の方では北西から南東に流れています。丘陵は「洪積層」で「大阪層群」と呼ばれる分厚い地層の一部です。平野は「沖積層」と呼ばれる軟らかい粘土層でできています。

気象

吹田市は大阪平野の北部から千里丘陵にあり、内陸部に位置します。「瀬戸内海式気候」に属し乾燥気味ですが、大阪湾からの海風の影響を受け、比較的温暖な気候となっています。

吹田市の気温と降水量
2001-2010 年 (10 年間) の平均値

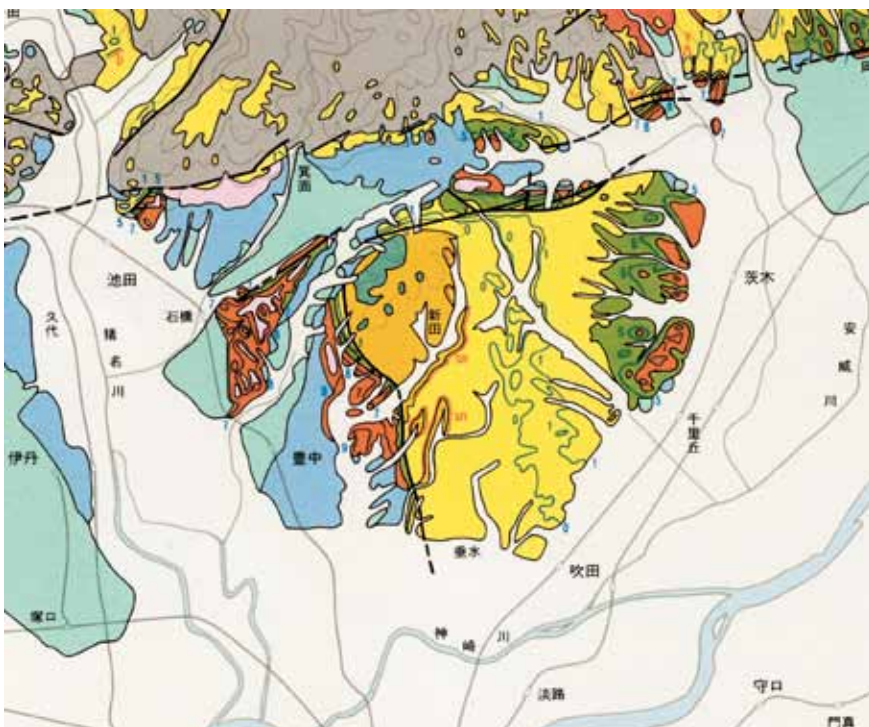


まちの発展と自然のようす

吹田は古くから開けた土地です。6 世紀ごろには須恵器などがたくさん作られ、その後も吉志部や七尾で多くの瓦が作られました。三島路（今の亀岡街道）や三国川（今の神崎川）が通って物資の集散地としても栄えました。戦国時代には吹田城が築かれましたが、その後は主に幕府領として稲・菜種・クワイ・タケノコなどが作られ、比較的最近まで農業が中心でした。丘陵には小さな村々が点在し、千里村（ちさとむら）と呼ばれたそうです。また、丘陵の端にはそれぞれの特徴から名付けられた岸部村、垂水村、豊津村などがありました。昭和 15

年（1940 年）以降、これらの村々がひとつになって、今の吹田市になりました。

昭和 45 年（1970 年）の万国博覧会と千里ニュータウン開発でようすが大きく変わり、千里丘陵の広い範囲が一気に市街地になりました。計画的に残された緑地と開発しにくい斜面地には林などが残っていますが、最近では千里の“リニューアル”と開発で、あちこちの斜面地がマンションなどになりました。現在、吹田市内で残っている自然は、生産緑地と社寺林などの他は、ほとんどが公園や保存緑地などに限られています。



吹田市付近の地質

- 凡例
- 低位段丘堆積層
 - 中位段丘堆積層
 - 大阪層群上部（上）
 - 大阪層群上部（下）
 - 大阪層群下部
 - 大阪層群最下部

原図
アーバンクボタ・MARCH
平成 3 年（1991 年）
株式会社クボタ